

WHO news September 2021

2021年9月1日

[World Antimicrobial Awareness Week 2021 - Spread awareness, stop resistance](#)

'Spread Awareness, Stop Resistance' has been agreed as the theme for the 2021 World Antimicrobial Awareness Week (WAAW) by the Food and Agriculture Organization of the United Nations (FAO), the World Organisation for Animal Health (OIE) and the World Health Organization (WHO), together known as the AMR Tripartite. The overarching slogan of World Antimicrobial Awareness Week continues to be 'Antimicrobials: Handle with Care' WAAW is celebrated from 18-24 November every year

世界抗菌薬啓発週間(11月18日～24日)

国連食糧農業機関 (FAO)、世界動物保健機関 (OIE)、WHO の三機関は、2021 年の世界抗菌薬啓発週間(WAAW) のテーマを「Spread Awareness, Stop Resistance」とすることで合意しました。

AMR (抗菌薬耐性、薬剤耐性) は、細菌、ウイルス、真菌、寄生虫が時間の経過とともに変化し、薬剤に対する耐性を持つことです。これにより、感染症の治療が難しくなり、病気の拡大、重症化、死亡のリスクが高まります。感染症の予防には、予防接種、安全な性交渉、手指の衛生管理、食品の安全性確保、水や衛生施設の利用拡大などがあります。

AMR は、人、動物、植物、環境の健康に影響を及ぼす複雑な問題です。そのため、AMR に対処するには、「ワン・ヘルス・アプローチ」と呼ばれる、全体的で多部門にわたるアプローチが必要です。

2021年9月1日

[IN FOCUS: 2021](#)

This 'In Focus: 2021' summary outlines the strategic direction and progress in strengthening country health information systems, making data available as a global public good, delivering a measurable impact and using data to drive public health policy.

WHO のデータ強化・利用状況報告書「In Focus : 2021」

WHO の第 13 次総合事業計画 (GPW 13) と「3 つの 10 億人」の目標、そして健康関連の SDGs を達成するには、強固なデータと科学がなければ不可能です。WHO の改革の一環として、「Division of Data, Analytics and Delivery for Impact」を設立し、WHO は、最新のデータを駆使・活用する組織へと変革を進めています。

WHO は、「3 つの 10 億人」目標を達成し、健康関連の「持続可能な開発目標」に向けた進捗を加速するために、データの管理・統制と基準の確立、人口の健康傾向のモニタリング、各国の能力強化、パートナーシップの活用注力しています。

この「In Focus : 2021」では、各国の保健情報システムの強化、グローバルな公共財としてのデータの利用、影響の測定結果の提供、公衆衛生政策の推進のためのデータの利用に関する戦略的方向性と進捗状況をまとめています。

2021年9月1日

[WHO releases new compendium of innovative health technologies for COVID-19 and other priority diseases](#)

The COVID-19 pandemic has highlighted the need for innovative health technologies that can help countries improve health outcomes by providing shortcuts to solutions despite lack of infrastructure and resources. However, many of the new technologies that have come to market are unaffordable or unsuitable for low- and middle-income countries.

To ensure that all countries benefit from health innovation, WHO has compiled a compendium of 24 new technologies that can be used in low-resource settings.

資源制限環境中での 24 の医療技術

COVID-19 のパンデミックにより、インフラや資源が不足していますが、その制約された環境の中でも、健康を向上させることができる革新的な医療技術の必要性が浮き彫りになりました。しかし、市場に出てきた新技術の多くは、低・中所得国では手が出ない、あるいは適さないものばかりです。

すべての国が医療革新の恩恵を受けられるよう、WHO は資源が制限された環境で使用できる 24 の新技術の概要をまとめました。

この概要には、殺菌されていない表面や物を肉眼で識別できる着色漂白剤などの簡単なものから、電気が使えない場所や不安定な場所でも使用できる携帯型呼吸器監視システムや拡張バッテリー付き人工呼吸器など、複雑ではあるが使いやすい機器までが含まれています。また、輸送用コンテナを利用した、緊急時に展開可能な医療施設も含まれています。

[大要 compendium](#)

2021年9月6日

[What's needed to improve safety and quality of abortion care?](#)

A multi-country research study led by the World Health Organization (WHO), the United Nations Special Research Programme HRP*, and partners in 17 countries is shedding light on the severity and clinical management of abortion-related complications.

Published in The BMJ Global Health, the facility-based study across 11 sub-Saharan African countries and 6 Latin American and Caribbean countries also explores women's experience of post-abortion care.

安全な中絶に WHO 勧告の実施を

WHO、国連特別研究プログラム（HRP）、および 17 カ国のパートナーによる調査研究により、中絶に伴う合併症の重症度と臨床管理の実態について明らかになりました。また、サハラ以南のアフリカ 11 カ国とラテンアメリカ・カリブ 6 カ国の施設を対象とし、中絶後のケアに関する女性の経験についても調査しています。

WHO が推奨している、より安全な子宮内容排出法に置き換えるための世界的な取り組みが長年行われてきたにもかかわらず、両地域では拡張・搔爬法が依然として使用されていることがわかりました。

安全な人工妊娠中絶と合併症への対処を改善するために、WHO の勧告を各国が実施する必要があることが明らかになりました。

（備考）HRP ; the UNDP/UNFPA/UNICEF/WHO/World Bank Special Programme of Research, Development and Research Training in Human Reproduction 人間の生殖に関する研究、開発、トレーニングの特別プログラム

2021 年 9 月 6 日

[WHO, Germany open Hub for Pandemic and Epidemic Intelligence in Berlin](#)

To better prepare and protect the world from global disease threats, H.E. German Federal Chancellor Dr Angela Merkel and Dr Tedros Adhanom Ghebreyesus, World Health Organization Director-General, will today inaugurate the new WHO Hub for Pandemic and Epidemic Intelligence, based in Berlin.

パンデミックの情報拠点をベルリンに開設

WHO とドイツはパンデミック及びエピソードの情報拠点をベルリンに開設しました。この拠点は以下のことを行います。

- ・病気の発生、進化、影響に関するシグナルや洞察を得るために不可欠な、複数のデータソースへのアクセスを強化する。
- ・検出、評価、対応のためにデータを処理、分析、モデル化する最先端のツールを開発する。
- ・WHO、加盟国、パートナーにこれらのツールを提供し、アウトブレイクのシグナルやイベントに対処する方法について、より良い迅速な判断を下支えする。
- ・現在および将来の疾病発生に対する解決策を開発している機関やネットワークを結びつけ、活性化させる。

テドロス事務局長は、「このハブは、公衆衛生の監視と対応のためにデータサイエンスのイノベーションを活用し、この分野の専門知識をグローバルに共有・拡大できるシステムを構築することで、その取り組みの鍵となるでしょう」と述べています。

2021年9月6日

[WHO and UN partners' compendium of 500 actions aims to reduce diseases from environmental factors and save lives](#)

WHO, UNDP, UNEP and UNICEF have partnered to create a new compendium of 500 actions aimed at reducing death and diseases driven by environmental risk factors, the first such resource to unite this expertise from across the UN system.

環境リスクから健康を守る 500 の行動

WHO、国連開発計画（UNDP）、国連環境計画（UNEP）、国連児童基金（UNICEF）は、環境リスクによる死亡や疾病を減らすための 500 の行動をまとめた新しい資料を作成しました。これは、国連全体の専門知識を結集した初めての資料です。

環境汚染やその他の環境リスクは、心臓病、脳卒中、中毒、交通事故などによる死亡原因の 24% を占めています。国、地域、地方、セクターごとに大胆な予防措置を講じることで、この犠牲者を大幅に減らし、さらにはなくすことも可能です。

この大要は、WHO のウェブサイト上でアクセスできるほか、オフラインで参照できる PDF ファイルとしても提供されており、都市や都市居住などの優先的な行動設定や、子どもの環境衛生のような分野横断的なトピックも取り上げています。

2021年9月6日

[World failing to address dementia challenge](#)

Only a quarter of countries worldwide have a national policy, strategy or plan for supporting people with dementia and their families, according to the WHO's 'Global status report on the public health response to dementia', released today. Half of these countries are in WHO's European Region, with the remainder split between the other Regions. Yet even in Europe, many plans are expiring or have already expired, indicating a need for renewed commitment from governments..

認知症の行動計画に立ち遅れる加盟国

WHO によると、認知症の人とその家族を支援するための国家政策、戦略、計画を持っている国は、世界でも 4 分の 1 しかありません。

認知症の人の数は増加しており、WHO は、5500 万人以上（65 歳以上の女性の 8.1%、男性の 5.4%）が認知症を患っていると推定しています。この数は、2030 年には 7,800 万人、2050 年には 1 億 3,900 万人にまで増加すると推定されています。

2017 年、各国政府は、「世界認知症行動計画」に合意しましたが、十分な進展がみられず、認知症の人へのケアと、そのケアを提供する人へのサポートの両面において、公式・非公式を問わず、国レベルでの支援を強化することが急務です。

2021年9月7日

[WHO Director-General's opening remarks at G20 Health Ministers Meeting - 5 September 2021](#)

WHO's global targets are to support every country to vaccinate at least 10 percent of its population by the end of this month, at least 40 percent by the end of the year, and 70 percent of the world's population by the middle of next year.

We can still reach these targets, but only with the commitment and support of G20 countries. As the largest producers, consumers and donors of COVID-19 vaccines, you hold the key to achieving vaccine equity and ending the pandemic.

We can never allow a pandemic on this scale to happen again.

And we can never allow an injustice like this to happen again..

G20 は公約を果たし、世界レベルの統治に責任を : WHO

テドロス事務局長は G20 保健相会合の開会挨拶で「世界中で 50 億人以上のワクチンが投与されているにもかかわらず、多くの国で感染者や死亡者が急増し続けています。しかも、投与されたワクチンの 75 % 近くがわずかに 10 カ国で接種されています。アフリカのワクチン接種率は最も低く、2 % です」と語り、グローバルレベルでの統治の強化とワン・ヘルスの取り組みなどを訴え、以下の 3 つの要請を行いました。

- 1) 昨年に公約したワクチン供給量を今月末までに果たし、各国でのワクチン製造を支援する技術、ノウハウ、知的財産の共有を促進すること
- 2) 将来あり得るパンデミックへの準備と対応に関する法的拘束力のある国際協定の策定と採択を支持すること
- 3) 加盟国分担金と任意拠出金の現在の不均衡を逆転させること

(備考) WHO のプログラム予算に占める任意拠出金は、2000 年に加盟国分担金を上回り、2018 年には 81.7 % を占めている。(任意拠出金が増えることは望ましくもあるが、反面 WHO の財政基盤が不安定になる)

2021年9月16日

[New World Food Safety Day Report highlights a year-round effort to promote and ensure safe food for all](#)

On 7 September 2021 WHO and FAO jointly released the annual World Food Safety Day report highlighting around 300 different events organized around the world on the occasion of World Food Safety Day (7 June 2021). Celebrations were held in 90 countries by international organizations, governments, businesses, non-governmental organizations, academics and individuals...

世界食品安全デーの年次報告書

世界食品安全デーは、国連が 2019 年から毎年実施しており、食品に関するリスクを予防、検出、管理するための注意を喚起し行動を促すことで、食料安全保障、人々の健康、経済的繁栄、

農業、市場アクセス、観光、持続可能な開発に貢献することを目的としています。
この報告書は、6月7日に世界各地で開催された約300のさまざまなイベントに焦点を当てたものです。
世界食品安全デーを通じ、WHOは食品安全を社会的課題の中心に据え、世界的に食中毒の負担を軽減するために活動しています。

2021年9月16日

[INCB, UNODC and WHO Joint Statement on Access to Controlled Medicines in Emergencies](#)

Recognizing World Humanitarian Day 2021, the International Narcotics Control Board (INCB), the United Nations Office on Drugs and Crime (UNODC) and the World Health Organization (WHO) once again call on governments to facilitate access to medicines containing controlled substances in emergency settings, including during pandemics and the increasing number of climate-related disasters..

緊急時における医薬品規制の緩和（共同声明）

2021年の世界人道デーを記念して、国際麻薬統制委員会（INCB）、国連薬物犯罪事務所（UNODC）およびWHOは、各国政府に対し、パンデミックや増え続ける気候関連の災害時を含む緊急事態において、規制物質を含む医薬品へのアクセスを容易にすることを改めて呼びかけます。

人道的緊急事態においても規制医薬品利用の自由度は抑えられています。

COVID-19パンデミックが始まって以来、WHOは世界レベルで20種類以上の医薬品が不足していることを確認しており、その中にはCOVID-19の重症例の治療のために集中治療室で使用される規制医薬品を含む4種類の医薬品も含まれています。WHOの必須医薬品リストに掲載されているモルヒネ、ジアゼパム、ミダゾラムなどの国際的に規制されている医薬品は、疼痛管理、緩和ケア、外科治療、麻酔、薬物使用障害、精神疾患、神経疾患などの治療に不可欠です。

2021年9月16日

[Stories from the field: How vaccines can help to prevent antibiotic resistance - Zimbabwe's response to drug-resistant outbreaks of typhoid and cholera](#)

Antibiotic resistance is a natural phenomenon that happens when bacteria develop the ability to defeat the drugs designed to kill them. The germs change over time, no longer responding to medicines thus making infections harder, and sometimes impossible, to treat. This, in turn, results in higher health care costs for both individuals and governments. “Preventing and controlling antibiotic resistance calls for a multi-pronged approach, of which vaccines is one”, says Dr Stanley Midzi, WHO Health Systems Strengthening Advisor.

ジンバブエの抗菌薬耐性への取組み

ジンバブエでは、この数十年、コレラと腸チフスの両方で、抗生物質に対する耐性化が大幅に進んでいます。

2021年5月末、ジンバブエの保健・育児省は、生後9カ月から15歳までの子どもを対象に、10日間にわたる多抗原ワクチンの接種活動を行いました。この接種活動は、WHO、Gavi、ユニセフの支援を受けたもので、アフリカ地域では初の試みとなりました。アウトブレイク対策としての緊急予防接種作戦が成功したことで、TCV（腸チフス Vi-conjugate ワクチン）が国の定期予防接種スケジュールに組み込まれることになりました。

WASHの改善にはコストがかかり、実施には数十年かかることもあります。適切なWASH（水・衛生・トイレ）インフラが整備されていない場合、感染症全般を予防・抑制し、ひいては抗生物質や抗菌剤への耐性を防ぐためには、ワクチンがより重要な手段となります。しかし、WASHの改善にはコストがかかり、実施には数十年かかることもあります。

WHO 駐ジンバブエ代表は、ジンバブエが統合的な対策としてTCVを導入したことで、WHO、ユニセフ、Gaviが2020年に発表した「予防接種アジェンダ2030」の戦略的優先事項を実現したと述べています。

2021年9月16日

[Costing tool for estimating the cost of interventions to improve hand hygiene in domestic settings](#)

A critical building block to achieving the global goal of universal hand hygiene by 2030 is adequate levels of funding. Understanding the costs of implementing hand hygiene plans is an essential precursor to fund allocation. This tool aims to provide country-specific cost estimates of achieving universal hand hygiene in households by 2030. It has been developed jointly by WHO and UNICEF, through a consultancy with WASHconomics, and with input from the London School of Hygiene and Tropical Medicine, the World Bank and WaterAid

手指衛生改善のための介入コスト計算ツール

2030年までに世界共通の手指衛生を実現するという世界目標を達成するためには、十分なレベルの資金が必要です。

このツールは、2030年までに家庭における一般的な手指衛生を実現するために必要なコストを国別に試算することを目的としています。このツールは、WHOとユニセフがWASHconomics社のコンサルティングを受けて共同で開発したもので、London School of Hygiene and Tropical Medicine、世界銀行、WaterAidの協力を得ています。

2021年9月16日

[Monitoring flour fortification to maximize health benefits: a manual for millers, regulators, and programme managers](#)

Flour fortification is the practice of deliberately increasing the content of one or more essential micronutrients in flour. Fortification of wheat and maize flours with vitamins and minerals is considered a cost-effective strategy to address micronutrient malnutrition and nutrition-associated health outcomes, such as anaemia or the prevention of neural tube defects

小麦粉の栄養素強化とモニタリングマニュアル

小麦粉の強化【fortification】とは、小麦粉に含まれる1種類以上の必須微量栄養素の含有量を意図的に増加させることです。小麦粉やトウモロコシ粉にビタミンやミネラルを強化することは、貧血や神経管欠損症の予防など、微量栄養素の栄養失調や栄養関連の健康被害に対処するための費用対効果の高い戦略と考えられています。

栄養素の強化が効果的に機能していることを確認し、栄養価が高く安全な強化最終製品を人々が確実に受け取ることができるようにするためには、強化プログラムをモニターする必要があります。

本マニュアルでは、栄養強化プログラムの行政面と家庭での消費段階におけるモニタリング指標を紹介しています。

2021年9月16日

[Financing common goods for health](#)

Common Goods for Health (CGH) are the core population-based functions or interventions that are essential to the health and well-being of entire societies. They necessitate public financing and public action as they are public goods or have large social externalities, and thus will not arise through market forces alone.

The objectives of this guidance document are to clearly define CGH, to discuss CGH's connections with other critical health agendas to build more responsive and resilient health systems and to address financing issues associated with CGH at national, sub-national and community levels.

健康を支える共通財の原資の確保

健康を守り維持し、社会として共有する財（Common Goods for Health : CGH）は、社会全体の健康と福祉に不可欠なものです。それは人々に基盤を置く社会の中核機能であり、行政による政策でもあります。

それは公共財として、社会の多方面に対してよい影響を持つことが期待されるため、公的資金と公的な施策を必要とします。したがって市場に任せるだけでは実現しえないものです。

今回発表されたガイダンスの目的は、健康を支える公共財とはなにかを明確に定義し、迅速で強靱な保健システムを構築するための他の重要な課題をCGHの中に位置づけることを議論し、国、地方自治体、地域共同体におけるCGHの原資確保の課題に対処することです。

この文書は、主に国や地方の財務・保健当局、その他の政府機関、国際・地域機関、市民社会、学術機関に利用されることを目的としています。

2021年9月21日

[Global community of practice grows to over 500 WHO trained infodemic managers](#)

The World Health Organization (WHO) has expanded the global community of practice of infodemic managers to more than 500 trainees from 120 countries following the completion of the 2nd WHO Global Infodemic Management training.

WHO：インフォデミック対応管理者を養成

WHOが偽情報、誤情報などの流言に対応するため、インフォデミック管理者の養成を120カ国500人以上に拡大しました。

このトレーニングは4週間にわたって行われ、さまざまなスキル、理論、実践を集中的に学ぶことができます。

研修生は、大学、WHOや国連のスタッフ、ユースネットワーク、メディア、保健当局、保健省など、各方面の分野や組織から参加しました。

2021年9月22日

[WHO's World Patient Safety Day Goals 2021 promote safe maternal and newborn practices](#)

The World Health Organization is calling on healthcare facility managers, leaders and health workers around the world to adopt a set of 5 World Patient Safety Day Goals 2021 to improve maternal and newborn safety at the points of care, particularly around childbirth. The goals will be launched at a Virtual Global Conference “Together for safe and respectful maternal and newborn care” on World Patient Safety Day on 17 September, with this year’s theme – Safe maternal and newborn care.

世界患者安全デー：出産時の母子のケア

毎日、約800人の女性と約6,700人の赤ちゃんが、出産前後に命を落としています。また、毎日約5400人の赤ちゃんが死産しており、そのうち40%は陣痛と出産に伴っています。死産、妊産婦や新生児の死亡や被害のほとんどは、妊娠中、出産中、そして生後間もない時期の、安全で尊重された質の高いケアによって防ぐことができます。

世界患者安全デー2021の5つの目標は、母体と新生児の安全なケアを実現することです。2030年までに妊産婦死亡率を低減し、回避可能な新生児死亡をなくすという、開発目標(SDGs)に向けて行動を加速させることを目的としています。

- 1) 出産時に女性と新生児に不必要で有害な行為を減らす
- 2) 妊産婦・新生児ケアのための医療従事者の能力強化と支援

- 3) 出産を尊重するケアの推進
- 4) 出産に用いる薬剤や輸血の安全な使用方法の改善
- 5) 出産時の事故事例の報告と分析

2021年9月22日

[WHO/ILO: Almost 2 million people die from work-related causes each year](#)

Work-related diseases and injuries were responsible for the deaths of 1.9 million people in 2016, according to the first joint estimates from the World Health Organization (WHO) and International Labour Organization (ILO).

According to the WHO/ILO Joint Estimates of the Work-related Burden of Disease and Injury, 2000-2016: Global Monitoring Report, the majority of work-related deaths were due to respiratory and cardiovascular disease.

WHO / ILO : 年 200 万人が労働により死亡 – 長時間労働が最大のリスク –

WHO と国際労働機関 (ILO) が初めて発表した共同推計によると、2016 年に仕事に関連した病気やケガで 190 万人が死亡しています。その大半は、呼吸器疾患と心血管疾患によるものでした。

非感染性疾患が死亡者数の 81 % を占めました。最大の死因は、慢性閉塞性肺疾患 (45 万人)、脳卒中 (40 万人)、虚血性心疾患 (35 万人) でした。労働災害は、死亡原因の 19% (36 万人) を占めています。

本推計では、長時間労働、大気汚染、喘息誘発物質、発がん物質、人間工学的なリスク要因、騒音など、19 の職業上のリスク要因を検討しています。最も重要なリスクは、長時間労働であり、約 75 万人の死亡に関連しています。また、職場での大気汚染 (粒子状物質、ガス) が、45 万人の死亡原因となっています。

テドロス事務局長は「これほど多くの人たちが、仕事を原因として命を失っているのはショッキングなことだ。報告書は、労働者の健康状況と安全管理を改善し守っていくための警告だ」と述べ、各国の政府や企業などに対して対策を求めています。

2021年9月22日

[Improving oral health through use of digital technology](#)

Mobile technologies for oral health: an implementation guide, released today, provides comprehensive instructions on how to complement existing oral health initiatives and oral health system responses through mobile technologies.

モバイル技術と口腔衛生

「口腔保健のためのモバイル技術：実装ガイド」では、モバイル技術を用いて、従来の口腔保健の取り組みや口腔保健システムの対応を補完する方法が説明されています。これは、WHO と国際電気通信連合 (ITU) が運営する「Be He @ lthy Be Mobile」プログラムで開発されたセットの一つです。

これまでは、携帯電話への健康メッセージの配信を行うことで非伝染性疾患の予防に焦点を当ててきました。新しいガイドはこの対策をさらに進めたもので、一般の人々に送信されるテキストメッセージを通じて口腔の健康を促進するだけでなく、医療従事者のトレーニング、口腔の健康状態の早期発見、疫学データの収集、患者のケアの質のモニタリングなどのガイダンスを、モバイル技術を通じて提供しています。

[実装ガイド](#)

2021 年 9 月 22 日

[Advocating for cervical cancer awareness and prevention on World GO Day](#)

Cervical cancer survivor and advocate, Icó Tóth, is continuing her efforts to raise awareness about HPV and cervical cancer as part of World Gynaecologic Oncology Day which takes place annually on 20 September. Established in 2019, World GO Day is an initiative of ENGAGe (European Network of Gynaecologic Oncological Cancer Advocacy Groups), a part of the European Society of Gynaecological Oncology (ESGO). Every year ENGAGe members and other supporters around the world spread awareness about symptoms, risks, treatment of gynaecological cancers and cervical cancer prevention. #GOfor became the official hashtag of World GO Day and this year the “hashtag series” has been extended to include #DareToAsk and #GoForPrevention.

子宮頸がんの啓発と予防を訴える World GO DAY

子宮頸がんから回復し、啓発活動を行う Icó Tóth 氏は、毎年 9 月 20 日に開催される「World Gynaecologic Oncology Day」の一環として、HPV (ヒトパピローマウイルス) と子宮頸がんに関する意識向上のための活動を続けています。2019 年に制定された「World GO Day」は、欧州婦人科腫瘍学会 (ESGO) の一部である ENGAGe (European Network of Gynaecologic Oncological Cancer Advocacy Groups) が主導するものです。

毎年、ENGAGe メンバーをはじめとする世界中のサポーターが、婦人科がんの症状、リスク、治療、子宮頸がんの予防に関する認識を広めています。そのメッセージは世界中のすべての女性にとって重要なものです。“情報は力であり、コミュニケーションは解決策です。” 婦人科がんの症状や治療の可能性、子宮頸がんを予防するための HPV についてなど、恐れずに医師に質問してみてください。

「#GOfor」は世界 GO デーの公式ハッシュタグとなり、今年は「DareToAsk」や「#GoForPrevention」など、「ハッシュタグシリーズ」が拡大されました。

2021年9月22日

[Snakebite envenoming: an interactive data platform to support the 2030 targets](#)

Geospatial tracking and convergent technology can greatly contribute to accurate information and improved awareness about venomous snakes. Having this information available can accelerate the implementation of life-saving interventions, such as improved planning and delivery of antivenoms, and identification of high-risk communities and locations where treatment and antivenom centres should be prioritized.

毒蛇咬傷：被害半減を目指すデータ構築

WHOの蛇毒情報・データ構築は、2030年までに蛇毒による死亡者数と障害者数を半減させるという、世界目標の達成を促進するものです。

効果的な治療を行う上で大きな課題となるのが、どの蛇がどこに生息しているのか、また蛇の種類ごとにどのような抗毒素が必要なのかを知ることです。WHOが構築するデータベースでは、ユーザーは地域ごとにどの種が生息しているかを確認し、種ごとに利用可能な抗毒素の最新情報入手することができます。このプラットフォームは、ほんの数秒が生死を分けることさえあるケースで、蛇に襲われてから治療を受けるまでのごく短時間のうちに、医療従事者が情報に基づいて最適な治療法を決定することをサポートします。

2021年9月22日

[Comprehensive Mental Health Action Plan 2013 – 2030](#)

The Sixty-sixth World Health Assembly, consisting of Ministers of Health of 194 Member States, adopted the WHO's Comprehensive Mental Health Action Plan 2013-2020 in May 2013. In 2019, the action plan was extended until 2030 by the Seventy-second World Health Assembly. Then in 2021, the Seventy-fourth World Health Assembly endorsed updates to the action plan, including updates to the plan's options for implementation and indicators.

メンタルヘルスアクションプラン 2013 – 2030

「メンタルヘルスアクションプラン 2013 – 2020」が更新され、2030年まで延長した計画が発表されました。

今回のアクションプランでは、新たな指標や実施方法が盛り込まれていますが、当初の4つの主要な目的は変更されていません。すなわち、メンタルヘルスに関するより効果的なリーダーシップと政策、地域に根ざしたメンタルヘルスおよびソーシャルケアサービスの提供、メンタルヘルスの促進と予防のための戦略の実施、情報システム、エビデンス、研究の強化です。

[これまでの「メンタルヘルスアクションプラン 2013 – 2020」の日本語版](#)

2021年9月27日

[New WHO Global Air Quality Guidelines aim to save millions of lives from air pollution](#)

New WHO Global Air Quality Guidelines (AQGs) provide clear evidence of the damage air pollution inflicts on human health, at even lower concentrations than previously understood. The guidelines recommend new air quality levels to protect the health of populations, by reducing levels of key air pollutants, some of which also contribute to climate change.

気候変動と並ぶ大気汚染の健康リスクー新しい大気質ガイドライン発行

WHOの新しい大気質ガイドライン (AQG) は、気候変動の原因ともなる大気汚染物質の濃度を下げることによって、人々の健康を守ることができる大気品質レベルを推奨しています。

毎年、大気汚染にさらされることで、700万人の早死にが発生し、数百万年以上の健康的な生活が失われると推定されています。子供の場合は、肺の成長と機能の低下、呼吸器感染症、喘息の悪化など、成人では、虚血性心疾患と脳卒中が屋外大気汚染に起因する早死にの最も一般的な原因であり、糖尿病や神経変性疾患などについても証拠が出てきています。

本ガイドラインでは、健康への影響について最も証拠が進んでいる粒子状物質 (PM)、オゾン (O₃)、二酸化窒素 (NO₂)、二酸化硫黄 (SO₂)、一酸化炭素 (CO) などの6つの汚染物質について大気質レベルを推奨しています。

[新しい大気質ガイドライン](#)

2021年9月27日

[New WHO Global Air Quality Guidelines aim to save millions of lives from air pollution](#)

GO VIRAL! helps protect you against COVID-19 misinformation. You'll learn about some of the most common ways false and misleading information about the virus are spread. Understanding these tricks allows you to resist them the next time you come across them online. Scientists who worked with us on the development of GO VIRAL! found that playing the game significantly improves people's ability to spot misinformation about COVID-19..

偽情報を見分けるためのゲーム Go Viral

GO VIRAL! は、COVID-19の誤った情報からあなたを守るために役立ちます。ここでは、ウイルスに関する誤った情報や誤解を招くような情報が広まる最も一般的な方法について学びます。これらの手口を理解することで、ネット上でこれらの手口に遭遇したときに抵抗することができます。GO VIRAL!の開発に協力してくれた科学者たちは、このゲームを楽しむことで、COVID-19に関する誤った情報を見分ける能力が大幅に向上するとしています。

このゲームは、ケンブリッジ大学の社会的意思決定研究所、英国内閣府、WHOの共同研究で生

まれました。友人や家族に「GO VIRAL」を呼びかけて、誤った情報の拡散を食い止めましょう。

2021年9月27日

[New coalitions announced at the UN Food Systems Summit to increase access to healthy diets from sustainable food systems](#)

Every year unhealthy diets cause 11 million deaths and a further 420 000 people die from consuming unsafe foods. Currently, 3 billion people cannot afford a healthy diet and unhealthy diets are related to 6 of the top 10 risk factors for the global burden of disease. Our food systems are making us sick. The covid-19 pandemic had a strong negative impact on food security and nutrition. For example, 370 million children lost access to school meals and it is estimated that additional 118 million people might have become food insecure.

WHO：国連食料システム・サミットで新たな連携を発表

毎年、不健康な食生活が原因で 1,100 万人が亡くなり、さらに 42 万人が安全でない食品を摂取することで亡くなっています。現在、30 億人の人々が健康的な食生活を送る余裕がなく、不健康な食生活は、世界的な疾病負担のリスク要因トップ 10 のうち 6 つに絡んでいます。

Covid-19 パンデミックは、食料安全保障や栄養面に大きな悪影響を及ぼしました。例えば、3 億 7,000 万人の子どもたちが学校給食を受けられなくなり、さらに 1 億 1,800 万人が食料不安に陥ったと推定されています。

公平、公正、持続可能な変革は、今から始めなければなりません。私たちの食べ物がどのように栽培され、育てられ、包装され、配送され、廃棄されるのかを調査することから始めます。栄養価が高く、安全で、多様性があり、手ごろな価格の食品を提供し、飢餓、食糧不安、栄養失調、食品由来の病気と闘い、非感染性疾患を予防するために、世界のあらゆる地域のフードシステムを再構築する必要があります。

2021 年 9 月 23 日、国連総会の期間中に、極めて重要な「国連食糧システム・サミット (UNFSS)」が開催されます。

WHO は、FSS に関する国連機関の 1 つとして、以下の 2 つを支援することを発表しました。

- 1) 持続可能なフードシステムによる健康的な食生活
 - 2) 学校給食連合
-

2021年9月27日

[New coalitions announced at the UN Food Systems Summit to increase access to healthy diets from sustainable food systems](#)

Every nine minutes, someone in low- and middle-income countries dies from rabies, even though this disease is entirely preventable. Following the theme of World Rabies Day 2021, “Rabies: Facts, not Fear”, WHO – in collaboration with the Food and Agriculture

Organization (FAO) and the World Organisation for Animal Health, under the partnership created by the United Against Rabies Forum – launched on OpenWHO.org a free, online course on how we can prevent this zoonotic disease in humans and control it in dogs and other animals.

狂犬病を阻止するオンラインコース開始

狂犬病は完全に予防可能な病気であるにもかかわらず、中低所得国では 9 分ごとに誰かが狂犬病で亡くなると計算されています。狂犬病の被害の 99 % は犬が原因であるため、狂犬病のリスクのある犬の少なくとも 70 % にワクチンを接種することが、犬同士および犬から人への狂犬病感染を阻止する最も安価で効果的な方法です。

WHO は、FAO (国連食糧農業機関) および OIE (国際獣疫事務局) と協力して、OpenWHO.org で、この人獣共通感染症を人間で予防し、犬やその他の動物による狂犬病感染を対処する方法について、無料のオンラインコースを開始しました。

2021 年 9 月 27 日

<https://www.who.int/news/item/24-09-2021-neglected-tropical-diseases-2020-preventive-chemotherapy-treatment-coverage-declines-due-to-covid-19-disruptions>

Data compiled by the World Health Organization (WHO) indicate the severity of disruptions caused to the delivery of health services for neglected tropical diseases (NTDs), with fewer people treated during large-scale treatment campaigns, as compared with more than one billion annually since 2015.

熱帯病 (NTDs) 患者の治療が大幅に低下

WHO によると、顧みられない熱帯病 (NTDs) に対する保健サービスが深刻な混乱に陥っており、2015 年以降、毎年 10 億人以上が治療を受けていたのに対し、大規模な治療活動で治療を受けていた人が減少しています。

NTDs 対策部の戦略的オペレーションユニット長である Afework H. Tekle 博士は、「混乱は広範囲に及んでおり、地域社会の対応や大規模な治療プログラムは 60 % の国で影響を受けています。NTD プログラムは、生産の遅れ、リスクのある人々や感染者を治療するために寄付された医薬品の出荷・配送の中断、必須の物資を他の目的に流用するなど、パンデミックに伴う様々な要因への対処を余儀なくされました」と述べています。

2021 年 9 月 27 日

[ACT-Accelerator partnership welcomes leadership and commitments at US COVID Summit to ending COVID-19 pandemic through equitable access to tests, treatments, and vaccines](#)

Global leaders attending the US-hosted Global COVID-19 Summit on 22 September reaffirmed their commitment to ending the acute phase of the pandemic, and the goals of the ACT-Accelerator, by agreeing targets to provide equitable access to COVID-19 tests, treatments, and vaccines.

COVID-19 サミット：ワクチンなど公平な供給を再確認

9月22日に米国で開催された COVID-19 サミットで、COVID-19 の検査、治療、ワクチンの公平な供給に合意することで、パンデミックの急性期を終わらせ、ACT - Accelerator の目標を達成することを再確認しました。

今回のサミットでは、2021年に世界人口の40%、2022年に世界人口の70%にワクチンを接種すること、2021年末までにすべての国で1日あたり1,000人に1回の検査率を達成すること、重症のCOVID-19患者を治療するすべての施設に十分な酸素供給、効果の確認された治療法、医療従事者用防護服を用意することなどのグローバル目標が合意されました。

2021年9月27日

[On new recommendation for treatment of COVID-19 patients: WHO calls for equitable access to casirivimab and imdevimab for COVID-19](#)

The World Health Organization (WHO) welcomes the addition of another therapeutic to the world's arsenal against COVID-19, but urges producing companies and governments to address the high price and limited production of the Regeneron antibody combination and ensure safe and appropriate handling of the medicine.

WHO：抗体カクテル療法の価格交渉と普及

WHO は新型コロナウイルス感染症の治療指針を改訂するに伴い、「カシリビマブ」と「イムデビマブ」という薬剤を混ぜて投与する抗体カクテル療法を推奨しています。

これと並行して、WHO は自社製品の事前認証を希望するメーカーへの呼びかけを開始しました。これにより、生産量が増加し、その結果、治療薬の入手が容易になり、普及の拡大が見込めます。

ACT-A のパートナーは、WHO と協力して、COVID-19 治療薬を推奨するための公平な供給の枠組みを構築しています。

更に、WHO はこの治療法の拡大のため、バイオシミラーの製造を可能にする技術の共有を求めています。

UNITAID は、この併用療法が高額で入手しにくいことから、低価格化と全地域、特に低・中所得国への公平な分配を目指して、現在薬剤を製造しているロシュ製薬と交渉しています。また、WHO は、WHO が定めた配分基準に従って、ユニセフを通じて同薬剤を寄贈・配布することを同社と協議しています。

(備考 - 1) UNITAID (ユニットエイド) ; HIV/エイズ、マラリア、結核に苦しむ発展途上国の人々のために、それらの国々では現状手に入れることが困難な高品質の医薬品・診断技術の価格を下げて、広く供給が行き届くようにすることを目的として、2006年9月に発足した国際医

薬品購入ファシリティー。

(備考 - 2) バイオシミラーとは生物学的に先発品と同等と見なされる、一般的に低価格の製品。

2021年9月27日

[New storybook to help children stay hopeful during COVID-19](#)

A new book published today aims to help children stay hopeful and positive during the COVID-19 pandemic. The story is a sequel to 'My Hero is You: how kids can fight COVID-19!', published in April 2020.

Both books have been released by a collaboration of 60 organizations working in the humanitarian sector, including the World Health Organization, UNICEF, the United Nations High Commissioner for Refugees, the International Federation of Red Cross and Red Crescent Societies and the MHPSS Collaborative for Children & Families in Adversity.

パンデミックに負けず、子どもたちに希望を与える物語

24日に出版された新しい本は、COVID-19のパンデミックの間でも、子どもたちが希望を持って前向きに生きることを目的としています。この物語は、2020年4月に出版された「My Hero is You: How kids can fight COVID-19!」の続編です。

この2冊の本は、世界保健機関、ユニセフ、国連難民高等弁務官、国際赤十字・赤新月社連盟、MHPSS Collaborative for Children & Families in Adversityなど、人道的な分野で活動する60の組織の協力により発売されました。

主に6歳から11歳の子供たちを対象としたこの物語では、ファンタジーの生き物であるアリオ (Ario) が登場し、子供たちが未来に希望を見出し、素直な愉しみに喜びを感じることができるよう、世界中を旅します。アリオは、古くからの友だちや新しくできた友達と一緒に、パンデミックの今、子どもたちが直面している恐怖、フラストレーション、心配事を取り上げ、恐怖、悲しみ、怒り、悲しみなどの困難な感情に直面したときの対処法を探ります。

2021年9月28日

[WHO Academy Groundbreaking Ceremony Expanding Access to Critical Learning](#)

Emmanuel Macron, President of the French Republic, and Dr Tedros Adhanom Ghebreyesus, WHO Director-General, today broke ground for the WHO Academy's campus in the French city of Lyon.

WHO アカデミー起工式 (リヨン)

9月27日、マクロン大統領とテドロス事務局長が出席し、リヨンのバイオメディカル地区で

WHO アカデミーキャンパスの起工式が行われました。

本アカデミーは、リヨンのキャンパスを拠点に、世界中の何百万人もの人々に、最高品質の健康に関する生涯学習の機会を提供します。このアカデミーでは、最新データに基づく健康指導、最先端の学習技術、成人学習の科学の進歩を取り入れ、デジタル、対面式、混合式の形式で、多言語による個別学習プログラムを提供します。

2024年にオープン予定です。

2021年9月28日

[All Principals video to mark two year anniversary of the launch of the SDG3 Global Action Plan](#)

To mark the two year anniversary since the launch of the SDG3 GAP, this video brings together the Principals of the 13 signatory agencies to the SDG3 GAP to explain how the agencies are working together to support countries toward an equitable and resilient recovery from COVID-19, what has been achieved so far and what needs to be done next.

SDG3-GAP、2周年記念ビデオ

SDG3 GAP (グローバルアクションプラン) は、2030年までに、各国が健康関連の目標達成ができるように支援する、多国間機関が結束したパートナーシップの枠組みです。

SDGs、特にSDG3の「すべての人に、よりよい健康と幸福を」に向けて加速することがこれまで以上に急務であるとの認識に立ち、SDG3 GAP 参加機関は、COVID-19 パンデミックに対応し、目標達成に向けた基盤づくりを支援してきました。

このビデオでは、SDG3 GAP の発足から2周年を記念して、SDG3 GAP に署名した13の機関が、COVID-19からの公平で強靱な復興に向けてどのように協力しているか、これまでに何が達成されたか、次に何をすべきかを説明しています。

2021年9月29日

[WHO and partners call for urgent action on meningitis](#)

Today, the World Health Organization (WHO) and partners launched the first ever global strategy to defeat meningitis - a debilitating disease that kills hundreds of thousands of people each year.

By 2030, the goals are to eliminate epidemics of bacterial meningitis – the most deadly form of the disease – and to reduce deaths by 70% and halve the number of cases. The organizations estimate that in total, the strategy could save more than 200,000 lives annually and significantly reduce disability caused by the disease.

WHO 髄膜炎戦略：年間20万人の救命を目標

髄膜炎は、脳や脊髄を包む膜に起こる危険な炎症で、細菌やウイルスの感染によって引き起こされます。細菌感染による髄膜炎は最も重篤で、年間約 25 万人が死亡しており、急速な流行を引き起こす可能性があります。感染者の 10 人に 1 人が死亡し、5 人に 1 人が痙攣、聴力・視力低下、神経障害、認知障害などの長期にわたる障害が残ります。

過去 10 年間、髄膜炎の流行は世界のあらゆる地域で発生しており、最も多いのはサハラ以南のアフリカの 26 カ国にまたがる「髄膜炎ベルト」と呼ばれる地域です。

WHO とパートナーは、2030 年までに、この細菌性髄膜炎の流行をなくし、死亡者数を 70 % 削減し、患者数を半減させることを目標とした初の世界戦略を打ち出しました。

注) 本サマリーは、WHO 発信情報のインデックスとして役立てて頂くよう標題及び冒頭部分を仮訳しているものですので、詳細内容については、WHO ニュースリリース、声明及びメディア向けノートの内容をこちらからご確認下さい。

<https://www.who.int/news-room/releases>

<https://www.who.int/news-room/statements>

<https://www.who.int/news-room/notes>